

平成28年度第1回(墨田区子ども・子育て会議)  
「学齡ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成28年5月24日(火)午後8時00分～8時50分  
会場：墨田区役所 131会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 放課後子ども教室及び学童クラブの設置状況について	資料1
(2) 放課後子ども総合プランに関する平成28年度の取組予定について(放課後子ども教室と学童クラブの連携)	資料2

3 閉会

配布資料

資料1	放課後子ども総合プランに関する現状について
資料1(別紙)	小学校・学童・児童館・放課後分布図
資料2	平成28年度における放課後子ども教室と学童クラブの連携事業について

出席者(敬称略)

委員

野原 健治(興望館館長)  
服部 榮(社会福祉法人雲柱社理事長)  
押田 剛(主任児童委員)  
佐瀬 一夫(中学校PTA連合会会長)  
森 八一(青少年育成委員会連絡協議会副会長)  
小菅 崇行(小菅株式会社代表取締役会長)  
熱田 美帆(公募)  
島村 博(菊川小学校長)  
松井 隆(寺島中学校長)

<欠席委員>

相澤 しのぶ(立花吾孀の森小学校PTA会長)  
内田 淳(青少年委員協議会委員)  
中村 信幸(連合墨田地区協議会議長)

< 傍聴 >

2名

部課長出席者

後藤 隆宏(教育委員会事務局次長) 石井 秀和(子ども・子育て支援担当部長) 岡本 香織(生涯学習課長) 浮田 康宏(子育て支援課長) 高橋 義之(待機児童対策担当副参事)

事務局出席者(検討チーム含む)

柿畑、岩佐、藤井、酒井、土井

事務局(株名豊)

渡邊

## 1 開会

委員	(開催の趣旨及び検討内容等説明)
委員	放課後子ども教室は現在行われてはいますが、格差が大きいです。その格差をいかに縮めていくか、そしてやっていない学校に対して、どういった支援ができるかを考えていかなければ、放課後子ども教室の拡充が難しいと思います。
委員	放課後子ども教室、学童クラブ、そして児童館は、まだ内容についてバラつきが多いです。保育に比べ範囲も広いので、やり方がまだ確定していません。そうすると、運営指針というものに出てきているので、それを手がかりにやっていくことが必要だと思います。
委員	江戸川区や葛飾区では、放課後子ども教室の似たようなものを先駆者としてやっていらっしゃる。事前に皆さんにご紹介して、比較、検討し、メリットとデメリットを把握して反映した方が良いのかなと思います。
委員	このことについての意見は参考にさせていただいて、この中にどう盛り込んでいくか、1つの提案としてお伺いしたいと思います。
委員	昨年墨田区の児童館のあり方について、誰しもが総合的な見地から意見を出していました。児童館と学童クラブと放課後子ども教室の3つで、墨田区の子どもたちの安全を確保しようと、大まかに今一番遅れているのが放課後子ども教室で、今の流れとしては、総合プランの形もありますが、放課後子ども教室が学童のようになっているところもあります。また、子どもがどう育つか、どのような力をつけていくのかということ伝える会などを実施すべきだと考えています。
委員	放課後子ども教室も学童化していくのではないかとということでした。
委員	放課後子ども教室を考えると、学力の向上ということで、学力向上プログラムというものがあり、学校が学力向上のために放課後を利用して利用しています。それと放課後子ども教室とどう連携をとっていきかが大きな課題です。
委員	連携するのが難しいということですね。

## 2 議題

### (1) 放課後子ども教室及び学童クラブの設置状況について

### (2) 放課後子ども総合プランに関する平成 28 年度の取組予定について

事務局	(放課後子ども教室の現況、放課後子ども総合プラン等について説明)
委員	いかがでしょうか。3校増えたということ、内容は連携型だということで空き教室のない学校が増えてきているのかどうかということ、ゆとり教育から学力向上ということで、学務センターのところから放課後子ども教室に対する認識というものはどうでしょうか。
委員	本校も確かに空き教室がない状態ではありますが、学校内には学童クラブはありますし、これからの時期は体育館を使って同じようにやっていけないだろうかと話が進みだしています。子どもたちが快適に過ごせる場所がないのが現状ですし、できるだけそうした部分も取り上げながらやっていけたらと思います。
委員	何か補足がございましたらお願いします。
事務局	総合プランについては、一昨年に国から出されていて、今のところ放課後子ども教室と学童クラブを融合させて、体験事業としてよい企画やよいプログラムをやっていくということで、平成 31 年度までに国の方からは全国 2 万か所でするようにと言われており、それに基づいて推進していくこととなりますが、中期的には今の形で融合させていくのだろうと私個人としては思っております。その先については議論が必要で、今の放課後子ども教室のやり方は、地域や P T A の方を中心にやっていただいております、地域頼みという批判もありますが、私は今のやり方を評価しているところがあります。1 つは学校と地域、保護者の連携を一定は進めることになっていること、それから地域力日本一という目標を掲げておりますので、地域の方、保護者の方のご負担をいただいておりますが、学校と連携していくことに意義があるのかなと思っております。
委員	地域力日本一を区長が目指すということですが、地域力の中に P T A というものは大きいと思いますが、放課後の問題について放課後子ども教室はどのように認識しているのでしょうか。
委員	連携されるということで非常によいと思います。第四吾嬬小学校の発起をやっておりましたが、立ち上げ時に私は副委員長で関わっており、日曜日の校庭開放を平日もやってほしいかと P T A に投げかけられました。当初は皆働いている中、やる人がいない状況でしたが、ようやく今、町会の方も出ていただくようになり、水曜日が町会で、土曜日が P T A、日曜日はおやじの会という形で、当番制でやっております。それを始めて 5、6 年くらいになりますが、そのくらいの期間をかけてようやく形になりつつあるのかなと思います。これから形をつくるところで他の地域の協力を得るところがネックになるのではないかと地域の方を説得することが第一ではないかという気がしています。
委員	放課後子どもプランを進めるには、地域の協力が必要です。そこをどう共有関係を生んでいくのか、プロセスでは実施した 3 校では望ましい方向に行っているのか、生涯学習課の方で意識したこと、努力したことはあるのでしょうか。
事務局	今回開始したのは梅若小学校の 1 校だけです。実施していない学校も事業開始に向けて、事情もお聞きしていましたが、誰か核になる方がいらっしゃれば話が済みやすいです。学校によって地域の方に入っていたり、P T A が中心になっていたり、事情が様々であるので、まずは地域のことをよく知っていただいている学校の校長先生や P T A 会長、青

	少年委員や育成委員会の方に情報収集を行って、核になっていただく方を見つけて協力体制を上げていくというやり方がよい方法かと思います。
委員	キーマンを見つけていくということですね。
委員	うちの子は第二寺島小学校に通っており、毎日のように墨田児童館に放課後通っていますが、学校では放課後子ども教室がなく、保護者の方と他の学校で放課後教育をやっていると話をすると、知らなかったという人がいました。学童に入っていない低学年の保護者は、学校にいた方が安心だとおっしゃっていましたが、私は、児童館で過ごしても他の学校の友達ができ、以前より支援員の方の対応が地域で見守っている感じがしたので、安心しています。ただ、気になるのは学力で、いつも児童館で遊んでばかりなので、本人たちは喜んでいますが心配です。
委員	中学校の立場で放課後子ども教室についてどうお考えですか。
委員	中学校の立場で考えますと、墨田区の中学生の80～90%は部活動に所属しています。放課後の中学校では色々な部活がグラウンドや体育館や教室を使って活動していますし、19時すぎからは地域の方が体育館やグラウンドを使っているので活用度は高いです。また進路実現ということで、部活動も塾も行くという非常に忙しい中学生もいます。進路実現のためには学力向上が必要で、定期考査の前には質問教室や、それぞれの理解度に応じて補習などに取り組んでいます。こういった現状から、放課後の中学生は忙しく、群れから離れる中学生が増えるということがあります。
委員	放課後子ども教室について、中学生の現状を教えてくださいました。 両国中学校にボランティア部ができました。中学生くらいでも放課後子ども教室、児童館などに来てくれるような活動をその一部でしています。
委員	学校内学童クラブとの連携ですが、具体的に組織のようなものを作っていますか。また、実際に何名が参加してどのような活動をしたのかを具体的に教えてくださいたいです。もう1つは、日曜日の校庭開放について日当が出ていると思うのですが、こちらについても日当は出ているのですか。
事務局	放課後子ども教室の方には運営委員会がありますが、必ずしも学童クラブや児童館の方が運営委員会に入っている訳ではありません。今回始めた事業は、教育委員会が児童館に委託をして、年に8回程度出張に来ていただくことになっています。運営委員会とは別に生涯学習課の職員と児童館と放課後子ども教室の担当者で打合せをしており、そこで内容を詰めています。今回第四吾嬬小学校で実施した時には50人くらいが参加していて、学童クラブの子どもたちはほとんど参加していましたが、そちらに参加せずに学童クラブの部屋にいるという選択をする子もいますし、希望者だけ参加することになっています。放課後子ども教室のスタッフの謝礼ですが、土日に実施していた校庭開放と同じで一人あたりの金額を決めて、教育委員会が積算した金額を運営委員会にお支払いして、運営委員会がその中からスタッフに謝礼を支払うという形です。
委員	運営委員会で使うのではなく、日当としてお渡ししているのですか。
事務局	そうですね。放課後子ども教室の場合は基本的にはお支払いしているようですが、土日の補助事業の場合は、PTAが中心になっていて、謝礼をお支払いした後で寄付を受けて、また別の事業で使うという場合もあると聞いています。
委員	放課後子ども教室には必ず運営委員会があるという事ですね。

委員	まだ見えない部分もあるのですが、説明も伺って民間の協力も非常に重要だと思いました。下町は昔からこのようなことについて熱心で、自営業や中小企業の方が多いため時間的に協力が出来ていましたが、これからは社会全体が厳しくなって、平日は濃密に仕事があるという状態で、このような活動をどう支えていくかが問題になる気がします。サラリーマンの方が多くなって時間が捻出しにくいということで、企業側や社会全体、働き方の問題を考えなければ、到達する近道は難しいと感じました。
委員	協力委員についても、ボランティアを含めた新しいマネジメントをどうするのか、継続性のもてる仕組みづくりをしないと難しいと思います。将来展望で見えているところはありますか。
事務局	平日のスタッフはPTAにお願いしている学校が多いのですが、アンケートを取って見たら協力できる方が結構いた、という学校もあります。PTAの中で当番を回したり、ご両親が来られなくて代わりに祖父母の方が来てくださったり、やりくりして少しずつご協力をいただいています。継続性を考えた時に、核になる一人だけに頼るかたちになると、長期的に続けていくのは難しいので、PTAを中心に地域の方の協力もいただいて進めるとよいと思います。PTAの役員は交代しますので、会長さんが退いたら放課後子ども教室の運営委員会の委員長をしていただくというような形でやっているところは、継続性はあるように感じています。
委員	人材の発掘もやっていて、まだまだポテンシャルもあるということですね。新しい仕組みのようなものはまだ必要になるはずですので、謝礼の問題などもあります。放課後子ども教室の経営・運営という視点をもっていきたいと思います。
委員	個人的な意見ですが、子育て支援はもともとお母さん方が社会に出る支援という目的ですが、PTAに頼るとするのはそれに矛盾する部分が出てきますので、地域やシルバー人材を使うなど、あまりPTAに頼らない形の方がよいと思います。
委員	どうでしょうか。
委員	やはりPTA主導ですと、今後PTAのなり手がいなくなってしまう可能性があります。サラリーマンもできるPTA活動ということになればなりません。PTA主導は長続きしないだろうと思います。
委員	色々な地域の役員をやらせていただいて思うのは、30～50代は就労に時間を割かねばならず、高齢の方々が地域のボランティアをしています。町会もPTAも若い方が出にくい状況が顕著になっています。もう一度そのあたりのことを考えながら長期的に進めなければならぬと思います。
委員	PTAに荷重をかけずそれをやわらげて、色々な方にどのように力を借りるかということで、墨田区全体へ地域・視野を広げなければなりません。
委員	放課後の居場所はそもそも何かということがあります。子どもは、家庭と学校と地域で育ちます。地域はのびのびできる場所で主体性を尊重されなければならないと思います。今回児童館のことを話しましたが、子どもの利益がやはり大事だと思います。学校と地域とが連携して子どもが地域で育ってくれると良いと思います。子どもが生き生きと過ごせるような活動をしていきたいです。
委員	子どもを中心とした考え方にしなければなりませんね。時間になりましたが、石井部長に今後のあり方等もお話いただいて、次回の予定も決めてまいりたいと思います。

事務局	昨年運営委員会で決めていたことは、まず放課後総合プランを達成するには学童クラブの充実と放課後子ども教室をつくることでした。国の指針においては、平成 31 年度までに改善すべきということになっています。学童クラブもその方向で、区域内に学童クラブがない学校がいくつかあるのでそこに設置し、併せて学童クラブの待機児童を減らしていきたいと考えています。放課後子ども教室についてはモデル実施ということで、第四吾嬬小学校と第一寺島小学校でやるということになっていますので、今後われわれと連携して平成 31 年度までにどこまで進めていけるかということのを来年度以降協議していきたいと思います。
-----	---

次回学齢 WG 開催予定

日時：平成 28 年 6 月 29 日前後

以上